

野菜の作業

パイプハウスを活用した冬期から来春に向けた作付け計画を立てましょう！

種まき	定植 (植付け)	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ 栽培し易い品種 オーライ トライ ・二十日ダイコン (ラディッシュ) 栽培し易い品種 コメット (赤丸) ワグスカレット(赤長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・イチゴ ・タマネギ ・ネギ 	<p>【イチゴ定植の注意点】 露地栽培に適する品種：「宝交早生」⇒甘味が強く作り易い 最近人気の品種：「章姫」・「女峰」・「とよのか」</p> <p>【施肥(10㎡当たり)】 堆肥 20kg・サライム 2kg・化成肥料 1.5kg ・肥え焼け防止のため、定植 10 日前には元肥を施用する。</p> <p>【栽植密度】 畦幅 120 cm×株間 30 cm：千鳥植えにする ・深植えに注意し、定植時には灌水を充分に行う。</p>
<p>パイプハウス 今年も助成がありますので積極的に活用して下さい！</p>	<p>収 穫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハクサイ ・葉ねぎ ・サトイモ ・シュンギク ・ダイコン ・ニンジン ・野沢菜 ・チンゲンサイ ・長芋 など 	 <p>【ポイント！：寒害防止】 11月下旬に寒害防止のため株の上に藁を広げ、春になって芽が動き出したら取り除くと良い。</p>
<p>【タマネギの定植について】 収穫時に葱坊主ができるのは、定植が早すぎ、生育が旺盛になり過ぎた場合に多い。 (10月中旬以降の定植を！)</p> <p>(良いタマネギの苗とは?) 草丈 25 cm程度で茎の太さ 5 mm程。</p> <p>(畑の準備：10㎡当たり) 堆肥 20 kg、サライム 150 g 化成肥料 1.3kg</p> <p>(定植方法) 植付けの深さは 4 cm程度とし、覆土を足で踏みつけ凍み上がりを防ぐ。</p>	<p>【稲わら堆肥の作り方】 脱穀が終了し、農作業に時間的な余裕ができたなら「稲わら堆肥」を作りましょう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲わらの量は 10 a 当たり概ね 600kg といわれています。 ・稲わらを裁断し、アルカリ資材と窒素 (石灰窒素) を加え、適度な切り返しを行えば良質な稲わら堆肥ができます。 <p>稲わら 100 kg 当たりの堆肥の作り方</p> <ol style="list-style-type: none"> ①裁断と稲わら積み 稲わらを裁断し、50 cm 程度に積み上げる ②石灰と窒素の添加 稲わら 100kg に対して石灰窒素 5 kg 程度を散布する。 ③灌水 稲わらを踏み込みながら、稲わらと同量程度の水を散布する。 ④家畜の糞尿がある場合は、稲わらの上に積む (水分が多い場合は灌水を加減する) ⑤：①～④を繰り返す⇒高さ 1.5m 程に。 ⑥倒れないように積み上げたら、乾燥防止のため「塩化ビニール」で覆う ⑦堆積後 3～4 日で発熱が始まる (60℃ 程度で長い間発熱するのが良い) ⑧発熱がおさまリ、温度が低下した頃 (約 40 日後) 切り返しをする ⑨切り返し後、再び発熱するが、その後温度が上がらなくなったら「出来上がり！」⇒発熱が続く場合は、もう一度切り返し。 	
	<p>追肥 (10㎡) 3月下旬に化成肥料を 400 g 施用する</p>	



花の作業（菊の冬至芽確保）

直売所でも人気の菊ですが・・・

菊は花が終わった後の株元から発生する芽（冬至芽）から次年度の苗を作ります。来年度菊の栽培を予定される方は、今のうちから知り合い（菊の栽培者）に声を掛け、冬至芽を確保しておきましょう！

また本年、菊を栽培された方は以下の管理を参考にしてください！

【良い冬至芽の増やし方】

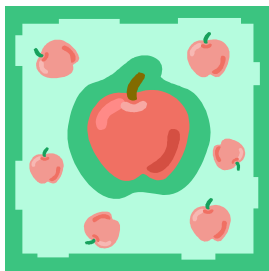
- ①花が咲き終わったら、地上部を50cm程度残して台刈りすると、冬至芽の発生が促進される。
- ②株元に土寄せをしておくとう冬至芽の数が増える。（一株当たり5～10本の冬至芽が目標）

【冬至芽の伏せ込みと挿し芽】

3月～4月頃が、イブハウスや小トンネルに「伏せ込む」摘芯後発生した側枝を5月に「挿し芽」して育苗する。

果樹（りんご）の作業

「ふじ」は10月の作業（葉摘み・玉回し）が重要です！



【ふじの肥大状況について】

夏の早魃の影響により平年並からやや小ぶりの生育です。

【葉摘み・玉回しについて】

支柱を立て・枝つりを行い、光が良く当たるようにしてから葉摘みにとりかかります。「葉つみ」を行わないと着色が悪く、玉回しが難しくなります。また葉を取りすぎると着色が深くなり、ツヤのない「フケ果」になります。また蜜が入らず軽い「ふじ」になり易くなります。

少量の葉摘みで、効率的に一回りすることが大切です。果実がずいぶんと暗い状況なら、果実の着色に影響する周囲の葉や新梢（徒長枝）を適宜除去して、日当たりを良くしましょう。2回目の葉摘みは10月半ば過ぎから着色が進んできたら行います。

玉回しも同時に進めて下さい。

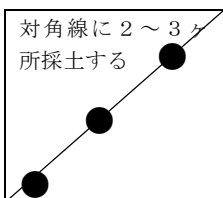


農業豆知識

質問コーナー

秋になり野菜栽培を終了した畑の土壌診断をしたいと考えています。土の取り方や、土壌診断による土づくりの考え方を教えてください。

霜が降り始めますと、今年栽培を反省しながら、例年に向けた土づくりの時期となります。土壌診断を是非活用し土壌改良に役立てて下さい。⇒処方箋を作成してお返しします。



対角線に2～3ヶ所採土する

【土の取り方】採土の方法は、ロータリーを掛けた後、移植ゴテ等を用いて畑の2～3ヶ所から土をとります（平均的になるように）。採土の量は全体で150g程度

【提出方法】土は日陰で乾燥させ（水分があると土壌診断の値が変わるため）ビニール袋に入れて、①氏名②住所③連絡先④来年度耕作予定の作物名を書いて提出下さい。

提出先：あさつゆ事務所 ⇒ 順次診断を行います。お急ぎの場合は普及センターへ！

【診断項目】・・・家庭菜園レベルではpHとECを診断します

- 1) pH（ペーハー）：土壌の酸度を調べ石灰の施用量を調整します。
- 2) EC（電気伝導度）：肥料の残渣を調べ、元肥・追肥（特に窒素肥料）の加減をします
- 3) その他の診断項目（石灰・苦土・加里・リン酸）
⇒（より詳しい診断項目：特に生育が悪かった場合など希望により診断します）

【以上、技術事項についての作成協力】上小農業改良普及センター（担当：白石主任 電話25-7157）